

第 15 回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■日 時：令和 8 年 3 月 23 日（月） 10:00～11:30

■場 所：周南市役所 庁議室

■出席者：下表のとおり

所属・団体名	役職	氏名	区分
東京大学大学院 工学系研究科	教授	羽藤 英二	学識経験者
周南公立大学 情報科学部	准教授	児玉 満	
周南公立大学 経済経営学部	講師	赤木 真由	
徳山工業高等専門学校 情報電子工学科	准教授	柳澤 秀明	
筑波大学 システム情報系	准教授	浦田 淳司	
徳山商工会議所	指導課主任	船井 辰郎	関係団体 を代表する者
周南市社会福祉協議会	業務課地域福祉係長	竹重 紀代美	
周南市スポーツ協会	主任	守田 真希	
周南市コミュニティ推進連絡協議会		黒神 充久	コミュニティ組織 を代表する者
周南市コミュニティ推進連絡協議会		岩崎 真之介	
山口県企画部デジタル推進局	デジタル統括監	田中 貴光	オブザーバー
周南緑地 P F I 事業者 (洋林建設株式会社)		山川 英一郎	

■配付資料

1. 第 15 回周南市スマートシティ推進協議会配席図
2. 周南市スマートシティ推進協議会委員名簿
3. 第 15 回周南市スマートシティ推進協議会資料
 - 資料 1 今年度の市の取組について
 - 資料 2 次年度の市の取組について
 - 資料 3 周南スマートシティデザインラボについて

■要 旨

1. 開会

(事務局)

- ・ 本日は、委員総数 10 名中 10 名の出席をいただいておりますので、「周南市スマートシティ推進協議会設置要綱 第 6 条」の規定により、本会議は成立しておりますことを御報告させていただきます。
- ・ 会議の開催にあたり、企画部長より御挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

(事務局 企画部長)

- ・ 本日は、年度末の大変お忙しいところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。
- ・ 今回の協議会は、今年度および次年度の市の取り組みに関する事、「周南スマートシティデザインラボ」に関する事を議題としております。
- ・ このデザインラボは、継続的にスマートシティを推進するための新たな仕組みとして始動し、今年度は約 9 か月間、チームごとに解決策の検討を重ね、先月無事に最終発表会を迎えました。
- ・ また、デザインラボは、次年度も新たなテーマを取り扱い、取り組みを継続する予定です。
- ・ 本日は、この取組をはじめとした活動が、より良いものとなるよう、皆様の忌憚のない御意見を賜りますようお願いいたしまして、簡単ではございますが御挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

3. 議題

(会長)

- ・ それでは議事に入ります。まず、「今年度の市の取組について」、事務局から説明してください。

(事務局)

(今年度の市の取組について説明)

(会長)

- ・ つづいて、「次年度の市の取組」について、事務局から説明してください。

(事務局)

(次年度の市の取組について説明)

(会長)

- ・ 次に、「周南スマートシティデザインラボ」について、事務局から説明してください。

(事務局)

(周南スマートシティデザインラボについて説明)

(会長)

- ・ ただいまの説明内容について、質問や御意見等をいただきたいと思います。

(委員)

- ・ 今年度の市の取組については、公式 LINE の拡充により情報がまとまって使いやすいものになってきていると思いますが、その中でも改善した方がよいと思う点があります。例えば、市民課窓口混雑状況が見られるが、すぐに見られるわけではなく、間に市のホームページを挟む仕様になっていますので、ボタンを押した後の動作の仕方やリンクの深さについてはもう少し検討していただくと使いやすくなると思います。また、ボタンのタイトルとリンク先のタイトルが異なっている場合があるので整合性をとっていただくと良い。
- ・ 次年度の市の取組については、AI の活用が含まれており、今後 AI はどんどん使われていくと思いますが、単純に AI と書いてもどういう AI を使うのかという見極めも必要だと思います。
- ・ デザインラボに関しては、3 テーマとも上手く解決策を導き出すことができたと思います。次年度も課題解決見据えて取り組んでいけるといいと思いますが、地域課題を取り扱うということで、今年度のように1年かけるよりも、短いサイクルで解決策を出さなければならない場面もあると思いますので、それも踏まえて今後の進め方を考えていければいいと思います。

(会長)

- ・ ワンストップで情報に到達できることは大事なことです。公式 LINE については見直し改善をお願いできればと思います。
- ・ AI については、市民のリテラシーや知識も市と一緒に成長していく必要があると思いますので、できるだけ丁寧な説明が重要だと思います。

(委員)

- ・ 来年度のデジタル関連の取組の中で、「周南市中心市街地歩行者等通行量調査・分析業務」とありますが、今も歩行者の情報が公開されており、デザインラボでそのデータを使用したときに年齢や性別などの細かい情報までわかると便利という話になっ

たのですが、そういう情報もとれるようになるのでしょうか。

(事務局)

- ・ これまでも通行量調査をしてきましたが、計測方法が変わるため、得られる情報の量や質は変わる予定です。得られる情報の詳細については、今後の調整となりますが、収集・蓄積されたデータがより良く活用できるようにしていきたいと思います。

(委員)

- ・ デザインラボは3チームとも無事に発表が終わり、現在、最終報告書をまとめているところです。
- ・ 当日観覧者を対象に実施したアンケートで、印象に残った発表や実現してほしいアイデアを聞き取ったところ、きれいに3つに分かれました。どのチームがとびぬけてよくできていたかとか魅力的だったかということではなく、聞いた方がどこに共感するかによって回答が変わってくるということがわかりました。プロトタイピングを繰り返すことで、実現性の高いアイデアになったのではないかと思います。
- ・ 一方で、今回は初年度ということもあり、いろんな反省点がありました。来年度はテーマ設定に時間をかけていくという話がありましたように、テーマ設定と、テーマを実装に繋げる課題ホルダーの役割の重要性に気づきました。来年度は今年度のプログラムに加え、丁寧な運営が必要と思います。
- ・ 加えて、活動においては、Slack と Miro、Instagram という3つのツールを活用して内部の情報共有や情報発信を行い、さまざまな気づきがありました。オンラインホワイトボードの Miro は、プログラム中やチームワークの中で使用しました。多様な方による長期間活動においては有効なツールでした。Slack は、多くの方が日常的に活用する LINE があるので、運営側からの促しがないと活用が進みませんでしたので、参加者間の情報共有は課題となりました。Instagram は、各チームの大学生2名ずつに広報担当者の役割を担ってもらい、活動後の原稿作成をしていただきました。初めての取組なのでどんな投稿をしたらいいかわからないということもあったかと思いますが、事務局と管理責任者と連携して発信できたと思います。より魅力的な情報発信となると良いです。

(委員)

- ・ 今年度の市の取組は上手くいっていたなというのが感想ですし、来年度もデジタル化に向けて少しずつ進んでいるということで順調だと思います。
- ・ デザインラボについては、今年度は、各チームに伴走者を置き、集中的に伴走支援・サポートを受けられる体制を構築されましたが、これは将来にわたって継続的に伴走者を置くことは難しいと思います。この体制は今年度だけのものでしょうか。
- ・ また、この仕組みの循環を上手くしていくためには、今年度活動に参画した方にリー

ダーのような役割で関わっていただくことが有効であると感じました。

- ・ 本学の学生もうまく参加できればいいと思うので授業の一部で何かできないかと考えましたが、授業の一部にしてしまうと学生の評価にも関わるため、ボランティア的に興味を持った人を参加させるという形をとることになります。例えば、ビジネス化や起業を目指すためのノウハウを学べる機会になれば、興味を持つ学生が増えると思います。

(事務局)

- ・ 次年度につきまして、何らかの形で伴走支援・サポートを受けられる体制を構築する予定です。
- ・ 将来的なデザインラボの仕組みに向けて、この体制については検討していきます。
- ・ また、デザインラボの活動を理解し、共感した今年度の活動参画者が次年度以降も活動に関わることは、この仕組みで継続的な課題解決に取り組むことにおいて、重要なことと考えています。

(委員)

- ・ 今年度のデザインラボに伴走者として参加しましたが、活発に議論をしながら活動をされていたことが印象的でした。
- ・ そもそも扱った課題が非常に難しいということもあり、社会実装をして大きな課題解決ということにはなかなかならないと思いますが、小さな課題解決としての成果があったと思います。
- ・ 今回培った議論のデータを上手く使うことで現状の理解が深まれば、市の担当者の方の今後の業務にも繋がると思います。
- ・ 旧市長公舎の有効活用のテーマの手続きの簡略化について今後は市の課題として解決する必要があると思いますので、今後そうしたプロセスを回すことも長い目で見たらデザインラボの成果の一つになると思います。

(委員)

- ・ 次年度の市の取組では、スターリンクの導入がありますが、どのくらいのコストがかかりますか。スターリンクは優れた技術ではありますし、インターネットは欠かせないインフラの一つになっていますので質問しました。
- ・ また、AIの活用については、選択するAIの種類によっては、不安になる方が現れるのではないかと思いますので、今後のAIの選定結果等については積極的に公開した方がいいと思います。AIを使う場面は今後も増えていくと思いますので、リスク管理などはしっかりとしていただきたいです。
- ・ デザインラボのウォークアブルで憩える徳山駅周辺のテーマについては、解決策が具体的に示されているので良いと思います。市内の団体や企業においても周南公立大学の

サテライトオフィスの誘致の要望や設置の検討がされておりますので、この解決策は、さまざまな機関とも連携して展開していくのかなと思いました。

- ・ 旧市長公舎の有効活用や公園の利活用促進のテーマは、建物の価値を高めることや公園の使っていく仕組みづくりという提案で、全体的にふわっとしており、解決策というよりもやってきた中での新たな課題という感覚です。デザインラボの最終目標の社会実装というところにはまだ遠いのかなという印象です。
- ・ 今後も継続する中では、もう少しテーマを絞って課題を解決していく必要があると思います。また、今年度同程度のテーマで継続する場合はもっと民間の方の意見を聞く必要があると思います。次年度は、課題の検討に重点を置きつつ理想としては社会実装までいくことを目指していければいいと思いますし、そこまでは難しくても事業の予算化の検討までは進めたら良いと思います。特に事業化の検討は年内までに済ませておくが良いと思います。

(会長)

- ・ 富山市の例では、自分たちで解決できる問題に取り組むこととしておりますが、周南市は周南市のやり方でいいと思いますので、検討期間の長短があつて良いと思うものの、課題設定が大事であるという御意見かと思えます。

(事務局)

- ・ スターリンクの質問に回答します。こちらは防災部門の所管になりますが、予定では2台分で月額84,000円の通信料がかかります。同時に使用するIP電話が2台分で月額6,424円の通信料がかかります。合計でひと月に約9万円の使用料がかかるものになりますが、緊急時の対応に必要なものと考えておりますので、市として準備を進めてまいりたいと思っております。

(委員)

- ・ デザインラボの最終発表会はオンラインで視聴しました。率直な感想としては一年間を通して試行錯誤を繰り返しながらしっかり解決策を導いたと思います。
- ・ 旧市長公舎の有効活用のテーマは、解決策としてターゲットに合った価値の届け方を提供するというものでした。いろんな地域課題を解決するにあたって一番大切なところだと感じました。ターゲットに合った情報や価値がきちんと届けば、解決に結びついていくと思います。
- ・ 公園の利活用促進のテーマは、月に一度の遊び場と点検業務を掛け合わせることで、単独では継続が難しいことも無理なく継続できるという工夫された解決策を導き出されたと思います。
- ・ 次年度取り扱う予定の地域課題については、社会福祉協議会でもいろいろと地域の方から見聞きする機会があります。外に出たくなる仕組みや高齢者の移動、見守りとい

う課題があげられます。そうした方のためのアイデアも今後考えていただければと思います。

(委員)

- ・ 次年度の取組で民俗資料展示施設のデジタルミュージアム化や博物館所蔵資料のデジタル化が予定されているとのことですが、スポーツ協会でも周南市内の史跡を巡りながらウォーキングをする企画を行っています。その際に紙の資料で両手がふさがった状態で歩くこともありますので、資料館内のみならず、外に持ち出せるような二次元コードも作成していただけるとイベント等でも使用できると思います。
- ・ デザインラボの最終発表会は、現地で聞かせていただきスポーツに関連する課題もあり、大変勉強になりました。ウォークブルで憩える徳山駅周辺については、テナントの活用という課題がありますが、中学校の部活動の地域展開において、活動場所に困っているチームがたくさんあります。こういう方々に対しては、ボール競技などは難しいかもしれませんが、ダンスや卓球、eスポーツなどの活動の拠点が徳山駅周辺にあれば若年層の方や保護者の方駅前に通える環境ができると思います。実現に向けては考えることが多々あると思いますが、そういう提案ができる可能性があると思いますながら発表を聞きました。

(委員)

- ・ デザインラボは、次年度は地域からも幅広く課題を集めるとのことですが、モデル地区では、これまで課題を集めるためのワークショップなどを行ってきました。既に地域の課題は把握されていると思いますので、これまで集めた情報も含めて課題を検討していただきたいと思います。そうすることでこれまで行ったワークショップなどが活かされていくと思いますのでよろしくお願いします。

(会長)

- ・ 今までのモデル地区のワークショップの積み上げたことを、モデル地区や他の地区でさまざまなことに取り組んできたと思います。それをデザインラボの取組の一つでも重ね合わせてみて、どういうことができるのかを実験的にやってみると、中心市街地での取組のみならず、市内他地域にも取組が広がるご提案と思います。

(委員)

- ・ 市の公式 LINE もそうですが、作成した SNS を広めるために二次元コード利用される場面が多数あると思います。作ることが目的になってしまい、広めることが難しいのが現状だと思います。一つの団体の中で複数の SNS を作ると、利用者からすると面倒くさくなり登録をしないので、作った後のことも想定した使いやすくする工夫をしないと広めることが難しいと思います。また、広めるための施策を徹底的に行う必要が

あると思います。

- AI 関係は今後も普及が進むと思いますが、何が AI で何が AI でないかの判断が難しい状況の中で、AI を導入すればいいという世の中になるのも怖いと思いますので、導入する際は慎重な判断が必要だと思います。
- デザインラボの進め方は、課題があったらその課題には背景があり、解決するためにはどんな目的と手法があって、検証をして、検証をした結果がどういう風に広まっていくかというところまでを見せる一つのサイクルを回すものと理解しておりますが、自身も同様のサイクルで課題解決に向けた検討の取組を行ったことがあります。来年度は、この活動にしっかりと参加していろいろな意見を言っていきたいと思います。

(会長)

- 公式 LINE やデザインラボについてもアウトカム評価を設定しておくという提案はいいものだと思います庁内の DX の取組を何で評価するかというきちんとした設定が必要という御指摘だと思いますので引き続き検討をお願いします。

(事務局)

- 市としては生成 AI 利用のガイドラインを策定しております。個人情報の取り扱いやセキュリティ面に気を付けて利用するように図っています。市としても生成 AI は令和 7 年度に導入したばかりですが、今後もセキュリティ等を保ったうえでの有効活用を図っていきたいと思います。

(オブザーバー)

- 緑地事業の PFI 事業者として公園の管理に興味があります。公園の利活用促進は、緑地事業よりもテーマを広くして取り組んでいただいているものかと思いますが、今回代々木公園で行われたようなことを、我々は緑地公園を舞台にやっていけないといけないと思っておりますので、本当に求められている機能やイベントが、この解決策とコラボして進めて行ければよりいいものができると思えました。
- この度、陸上競技場もオープンしますし、令和 8 年度には屋内プールも整備していきます。先にハード面の工事が進んでいって、その後はソフト面の管理になりますので、今後運営する中でより良い施設を作ることにおいては、出てきた解決策などの社会実装に向けた取組をしていければいいと思います。
- 次年度の課題の候補である若者の定着については、関われるとしたら公園の施設機能の部分になり、間接的ではありますがよいまちづくりの一翼を担うことで若者の定着に繋がると思います。
- AI の件は、我々の建設業では図面を写真で読み込んだり工事現場の写真を読み込んだりしたら施工方法が瞬時に表示されるシステムがありますが、まだ不安定

でとんでもない施工方法を提案されることがあります。AIは万能ではないので必ず人間の手がかかります。AIはあくまでも道具として使うしかないので、今後どこまで深くAIを使っていくかを見極めていきたいと思いました。

(オブザーバー)

- ・今年度のデジタル関連の市の取組については着実に進められていると思います。
- ・次年度の取組についても、県においては市町向けのデジタルガバメント相談窓口を設置しておりますので、相談したい事項があればお気軽に御連絡いただきたいと思います。
- ・デザインラボについては、最終発表会で講評者として参加させていただきました。
- ・課題を設定して解決策を出すということに難しさは十分理解していますが、3テーマとも、市の職員は当然のことながら民間企業とも連携しながら課題解決策まで提示をされていて、いい取組になっていると思います。
- ・課題解決策までは出るが、そこからの社会実装のハードルが高いと感じています。そこについては、県でも社会実装に向けた支援事業を行っており、来年度も引き続き行う予定としております。
- ・デザラボの取組としては、今年度やったことは来年度実装に向けて取り組んでいくということだと思いますので、県の事業の活用も一緒に検討できれば良いと思います。また、来年度の課題解決の取組の中で、Y-BASEで一緒に取り組めることがあれば、デジタルを活用した課題解決に繋げていければと良いと思います。

(会長)

- ・さまざまな意見をいただきありがとうございます。
- ・デザインラボは上手く立ち上がってきており、次年度が楽しみだと思いましたが、今回いただいた御指摘を踏まえてやり方をカスタマイズして周南流にしていければ良いと思います。委員の皆様にご参加いただいて非常にいい御意見をいただくことが上手くいっていることの表れだと思いますので、是非皆様でこのデザインラボを成長させていただければと思います。
- ・AIなどの新しい技術に対する不安やガイドラインが必要なのではないかという御意見が相次いでいたように思いますので、このあたりは両輪となりますので気を付けていただきたいと思います。
- ・また、委員からもあったように、今までのモデル地区での活動での意見を汲み上げながらさらに周南市のスマートシティの可能性を模索していく必要があると思いましたので、次年度の体制づくりにつきましても、ブラッシュアップしていただけたらと思います。

- ・ 以上で、本日の議事を終了します。委員の皆様、議事進行に御協力いただきまして、ありがとうございました
- ・ それでは、進行を事務局へ返します。

(事務局)

- ・ 本日は御多用のところ御出席いただきありがとうございました。また、各取組においては、皆様には多大な御協力をいただきまして誠にありがとうございます。今後も引き続き、御理解御協力のほどよろしくお願いいたします。
- ・ 次回、第16回の周南市スマートシティ推進協議会については、改めて日程調整させていただきますので、御出席のほどよろしくお願いいたします。

6. 閉会

(事務局)

- ・ 以上で第15回周南市スマートシティ推進協議会を閉会します。

以上